２学期朝礼講話

皆さん、おはようございます。本日は２学期の折り返しの日となります。２学期が始まって２か月が経ちましたが、皆さんはどのように感じているでしょうか。２学期のスタート早々には集中研修があり、南稜祭の体育の部が開催され、10 月には中間テストが行われました。そしてこの間、とても苦しくつらい出来事もありました。最も大切なことは、「忘れないこと」だと思います。ぜひその思いを大切にしてください。

さて、これからの後半をどう過ごしていくかですが、やはり「新たな目標を設定すること」が重要になります。すでに目標が定まっている人はもちろん、まだの人も「自分が何をやるべきか」を明確にしていきましょう。そのうえで、私が日頃から伝えている３つのことを改めて心に留めてほしいと思います。それは、「授業に集中すること」「仲間を大切にすること」、そして「たくさん挑戦すること」です。

１つ目の「授業に集中すること」についてですが、もっと本気で勉強に取り組みましょう。朝から机に突っ伏している人はいませんか？ 高校入試の面接のときに自分が話した言葉を覚えているでしょうか。「高校に入学したら勉強を頑張る」と言っていた人がいたはずです。あのときの気持ちを忘れてしまっていませんか。改めて気持ちを入れ直し、真剣に机に向かってください。

２つ目の「仲間や友人を大切にすること」について。これは特に３年生に伝えたいことです。すでに進路が決まった人は、これから進路に挑む仲間の邪魔を絶対にいしないでください。ぜひ温かく応援してあげてください。

３つ目について、普段私は「たくさん失敗をしなさい」と言っていますが、ポジティブな声をかける「ペップトーク」の視点から言えば、「たくさん挑戦してください」と言い換えるのが良いでしょう。失敗を恐れず、どんどん挑戦していってください。

今日は講話ですので、少し私自身の経験についてもお話ししたいと思います。皆さんは、自分が努力した手柄を他人に横取りされたり、横取りされそうになったりした経験はありますか？ これから社会に出ていく３年生も、もしかしたら将来そのような思いをするかもしれません。私もかつて県庁に勤務していた頃、そうした苦い経験をしました。担当した事業が無事に成功し、その結果を課長に報告しようとしたときのことです。突然、上司が横から割り込んできて、「それは僕から連絡しておくよ」と言って電話をかけてしまいました。周りの職員は唖然として私を見ていましたが、私はただその様子を呆然と眺めることしかできませんでした。その上司はほとんど仕事に加わっていなかったにもかかわらず、まるで自分がすべて成し遂げたかのように電話をしていたのです。「世の中にはこんな人がいるのか」と、当時は大変驚きました。

また、もう一つ覚えていることがあります。自分が知恵を絞って企画し、予算も無事に獲得して「さあこれから事業を進めるぞ」というタイミングで、異動が決まってしまったこと

がありました。県庁ではよくあることなのですが、その後、その事業が大成功を収め、引き継いだ次の担当者は出世していきました。「一生懸命考えたのは自分だったのになあ」と、何とも言えない物悲しい気持ちになったのを覚えています。

しかし、世の中には他人に手柄を平気で譲ってしまうような、心豊かな人も存在します。今から 90 年前、1936 年のベルリンオリンピックでの出来事です。陸上競技の棒高跳びに、日本代表の西田修平選手と大江季雄（すえお）選手が出場していました。2 人は上位３人による最終決戦に残り健闘しましたが、アメリカの選手が金メダルを獲得し、２人は２位タイの記録となりました。当時は順位を決める決定戦が行われず、試技数の差により本来であれば西田選手が銀メダル、大江選手が銅メダルとなるはずでした。しかし、前回のオリンピックで既に銀メダルを獲得していた西田選手は、「自分は銅メダルでいい。後輩の大江に銀メダルを譲りたい」と申し出ました。西田選手は帰国後もその真相を語ろうとはしませんでした。事の顛末を知った大江選手のお兄さんが「順位を正しく戻してメダルを交換しよう」と提案しましたが、西田選手は頑なにそれを拒みました。そこで２人は話し合い、西田選手と大江選手の銀メダルと銅メダルを宝石店に持ち込んで半分に切り分け、それぞれを繋ぎ合わせた「銀・銅メダル（友情のメダル)」を作り上げたのです。

このエピソードは、長らく当事者たちだけの秘密でした。その後、大江選手は太平洋戦争で戦死されてしまいます。戦後、遺品の中から半分に割られたメダルが見つかったことで、この美しい物語が世に知られることとなりました。続く東京オリンピックは戦争の激化により中止となり、２人の競技生活は終わりを告げました。

私はこの「友情のメダル」の話を知ったとき、県庁時代に抱いていたモヤモヤとした気持ちが、すっと晴れていくような感覚を覚えました。皆さんもこれから社会に出て、理不尽な思いや嫌な体験をすることがあるかもしれません。そんなときは、相手を責めるばかりではなく、この西田選手の潔さや思いやりの心を思い出してもらえたら嬉しいです。

以上で本日の校長講話を終わります。　　（令和８年１１月２日、朝礼）